

エディオンピースウィング広島（広島サッカースタジアム）＜全体概要＞

プロジェクトのポイント

- 広島市が事業主体として、広島市中央公園内に**サッカースタジアム及び隣接する広場エリア**を整備する事業
- 中四国最大の商業地である広島市中区紙屋町や八丁堀地区に近接した**「街なかサッカースタジアム」**として広島市中心部の活性化及びにぎわい創出に寄与できる施設を目指す
- スタジアム単体に留まらず、広場や近隣施設といった**周辺との一体的な開発計画**、**多様なステークホルダーが関与**する事業スキーム、**ハード・ソフト両面**における多くの**新たな試み・仕掛け等**を実施した**次世代を牽引するリーディングプロジェクト**

施設概要

所在地／アクセス	広島県広島市中区基町／路面電車「原爆ドーム前」から徒歩約10分、広島バスセンターから徒歩約10分、JR「新白鳥駅」から徒歩約15分				
面積	敷地(スタジアム)	約49,900㎡	延床	約65,800㎡	
構造	RC造/一部SRC造 7階建て				
観客席	28,520席				
付帯施設	VIPルーム	有り(ラウンジ含む)			
	飲食・物販	有り(サッカーミュージアム、スタジアムショップ、飲食店等)			
	その他	会議室、更衣室、医務室、キッズルーム、センサリールーム、駐車場等 関連施設:広場(公園・にぎわい施設等)、ペDESTリアンデッキ			
ホームチーム	「サンフレッチェ広島」(サッカーJリーグ) 「サンフレッチェ広島レジーナ」(サッカーWEリーグ)				
用途	サッカーJリーグ公式戦、WEリーグ公式戦、各種イベント など				
防災機能	・災害時の一時避難場所として防災備蓄倉庫や耐震性貯水槽等を整備 ・隣接する広場エリアと共に、指定緊急避難場所に指定				

施設写真



スタジアム外観



フィールド全景

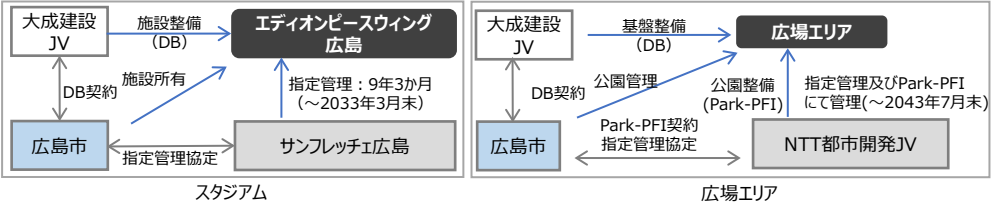


広場エリア(俯瞰)

事業概要

事業手法	・ スタジアム ・ 広場エリア	デザインビルド方式+指定管理 Park-PFI方式+指定管理
事業主体	広島市	
所有者	土地：国(公園管理者：広島市)、建物(スタジアム)：広島市	
実施主体	・ スタジアム	整備：大成建設(株)を代表企業とするJV 運営管理：(株)サンフレッチェ広島
	・ 広場エリア	基盤整備：大成建設(株)を代表企業とするJV 公園整備：NTT都市開発(株)を代表企業とするJV 運営管理：NTT都市開発(株)を代表企業とするJV

スキーム図



施 工 期 間		2022年2月～2023年12月(1年11ヶ月)※広場エリアは～2024年7月					
整 備 費		約286億円					
資 金 調 達		・ 国補助金(都市構造再編集集中支援事業等) 約101億円 ・ 寄附金(ふるさと納税、企業版ふるさと納税) 約77億円 ・ 広島県・広島市負担金 約80億円 ・ 市債の償還財源に充当する使用料収入等相当額 約27億円 等					
収	支	収 入	非公開	利用料金収入 非公開		支 出	非公開
				そ の 他 収 入 非公開			
				指定管理料等 52百万円/年			
行政の役割		施設整備、建物の所有、指定管理者の指定、関係機関と連携等					

エディオンピースウイング広島（広島サッカースタジアム） <評価ポイント>

【ポイント①】周辺地域への経済的・社会的価値の最大化

- 隣接する**広場エリア**(約2.4ha)に**にぎわい施設等**を整備し、**スタジアムとの複合化**を図ることで、**幅広い世代が日常的に集い楽しめる空間**を形成。
- ペDESTリアンデッキ**(2か所)、**スタジアムと広場を繋ぐコンコース**整備により、平和記念公園、広島城等の周辺エリアに至る動線を確保し、新たな回遊性や集客性、にぎわいを生み出す、開かれた「**街なかスタジアム**」を実現。
- サンフレッチェ広島のチーム名の由来と関係の深い**広島城との融和性**、**川沿いの景観への配慮**、広島市景観計画に適合したデザイン。
- 近隣の生活環境確保に向けた**騒音、光害、振動等を抑制する施設計画**。



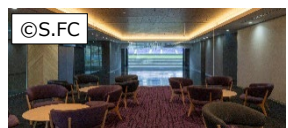
配置図

【ポイント②】顧客経験価値の向上

- スタンドとピッチ近接(最短約8m)**による臨場感、躍動感、一体感の創出。
- 混雑時にも安全に移動できる幅員(10m)を確保し、離席時もプレイを見逃さない、ピッチへの視線が確保された**360度型コンコース**(3階)の整備。
- 幅広い世代や属性ニーズに合わせた**全席屋根付の多様な観客席(42種)**を整備。
- VVIP室、VIPラウンジ、バルコニー席を持つスカイボックス**や**ビジネスラウンジ**などの**ホスピタリティエリア**を整備。
- 大型(9×32m)と帯状(約380m)ビジョンに加え、光/音の演出効果を高める**照明・音響・映像設備の統合連携**により次世代観戦環境を実現。
- トイレ混雑や災害時の避難誘導等**様々な情報を表示できる**サイネージ**。
- センサリールーム**や吹抜空間を有効活用した**キッズルーム**を常設。



360度型コンコース



試合前の選手が見えるラウンジ



大型ビジョンと帯状ビジョン



センサリールーム



キッズルーム

【ポイント③】多様な資金調達の実現

- 整備段階**では、市・県・商工会議所等が中心となり資金調達を推進。**企業や個人からの寄附金、国の補助金**、使用料収入等を償還財源とする**市債発行**などにより資金確保を図ると共に、不足部分は市・県が協力して資金確保。
- 運営段階**では、試合日の施設利用や駐車場時間貸し、諸室・コンコースのイベント時貸出し等、**施設利用の増加が指定管理者の増収に繋がる利用料金スキーム**を採用。また、**自主事業**としてサッカーミュージアム、スタジアムショップ、飲食店等の設置・運営、スタジアムツアー、ラウンジ利用者への飲食提供、広告募集・設置等により、**更なる収益を確保**(自主事業収入の一部を市へ納付するスキーム)。
- 将来の修繕に備えた財源**について、スタジアムの施設名称に**ネーミングライツ**を導入(株エディオン取得(1億円/年))し、**大規模修繕費用に充当**する計画。

【ポイント④】多様な利用方法や用途の実装

- スタジアムテラス(2階)には、試合時はバックスタンド席、試合非開催時にはオープンスペース(7×53m)として活用ができるよう、**段床と座席を壁面に収納可能な移動観覧席**を整備。
- スタジアム(2,3階)へ車両が進入可能なスロープを設置**し、機材搬入を容易に可能。
- 広場エリアには、**芝生広場や水辺広場、商業施設「HiroPa」**を整備。スポーツやレクリエーション等のアクティビティ、イベント等の開催、災害時の避難場所といった**公園機能**に加え、飲食・物販・キッズプレイパーク・フィットネス・BBQ施設などのバラエティに富んだテナントが揃う**にぎわい機能**により、**日常的に人が集い・憩える空間**を創出。
- バックスタンド側のテラスと広場とのシームレスな接続**、広場と本川河畔を繋ぐコンコース(2階)、指定管理者間の連携により、スタジアムと広場エリアのにぎわいを一体化。



移動観覧席 利用時(左)、収納時(右)



キッズプレイパーク



©ACTIVE COMMUNITY PARK

HiroPaと芝生広場